



博学連携プログラム 中学校と特別授業を開催



2月17日(火)、18日(水)に浜松市にある私立聖隷クリストファー中・高等学校の中学1年生を対象とした特別授業を開催しました。この特別授業は、当館の展示している世界各地の楽器や音楽を通して文化や歴史、人々の暮らしなどを学ぶ総合的な学習として同校と博物館が共同で企画しているもので、平成21年度から始まり今年で6年目になります。例年は1日で行っていましたが、今年は生徒数が多く、初めて2日間に分けて1日1クラス30人で10時から15時まで行いました。この日までに事前学習をし、当日の博物館では「ガムランの演奏体験」と「展示楽器の調べ学習」を15人ずつ午前午後と交代で行いました。

ガムランの演奏体験は、常設展示されているインドネシア・ジャワ島のガムランを実際に使用して当館職員の指導で「トロボンバン」という曲の演奏体験をしました。ほとんどの生徒が実物を見るのは初めてでしたので、演奏の前に解説を行いました。馴染みのある西洋楽器とは異なる音階で、もともとは楽譜が使われていないこと、15、6人での合奏にもかかわらず指揮者がいないことなど、西洋楽器との違いに驚いていました。最初は全員で旋律を担当する楽器を演奏しましたが、その他に拍節を叩く楽器や、難しいリズムを担当する楽器にも挑戦し、1時間半ほどで

合奏を完成することができました。また、演奏の合間にインドネシアの地理や、当館が行った現地調査の話や映像なども紹介しました。

展示楽器の調べ学習では、生徒が1人1つの楽器を事前学習で調べ、展示している楽器の前で調べたことを発表しました。緊張しながらも全員が発表することができました。また、どんな素材が楽器に使われているかをテーマに展示を見学しました。本で得る知識だけでなく、実際に見て気がついたことや、そこで学んだことをワークシート一杯に記入する熱心な生徒の姿も見られました。

博物館と学校との連携は全国各地でさまざまな試みが行われていますが、実際には博物館が企画したプログラムを行うことが多いようです。当館では学校の教員と博物館の職員が何度も打ち合わせをして、共同で考えるという連携プログラムを実践していることにより、年々生徒の充実度が増してきているようです。

日 時：平成27年2月17日(火)、18日(水)
10:00~15:00

会 場：楽器博物館 展示室

会 講 師：田上知穂(聖隷クリストファー中・高等学校教員)、
梅田徹(楽器博物館 学芸員)

対 象：聖隷クリストファー中・高等学校 中学1年
人 数：60人(2クラス)

子どものための楽器体験ワークショップ 2015 「バンジョーをひこう！」



2月1日（日）、子どものための楽器体験ワークショップ 2015 の第2弾、「バンジョーをひこう！」を開催しました。講師はバンジョー演奏家の原さとしさんです。原さんは E テレの子ども向け音楽教育番組「ムジカピッコリーノ」に出演されたり、「横濱バンジョー祭り」を主宰したりと多岐にわたって活躍されています。小学生を対象にバンジョーの魅力を伝えていただきました。

バンジョーはカントリーミュージックやブルークラスだけでなく、J-pop やディズニーの曲でもおなじみの明るく軽やかな音がする弦楽器です。初めてバンジョーに触るという参加者も多く、楽器を弾けるようになるのか、不安そうな表情も見られましたが、原さんの楽しいお話とユニークなパフォーマンスで会場は一気に和みました。「アメリカの三味線」と表現されることもある「バンジョー」と日本の楽器「三味線」との違い、そしてバンジョーの歴史をわかりやすく解説していただきました。

子どもたちの緊張がほぐれたところで早速、楽器の持ち方からスタート。子どもには少し重たい楽器なのですが、保護者の方が手伝ってくださり、スムーズに楽器を構えることが出来ました。まずは、全員で「アルプス一万尺」に挑戦しました。先生の伴奏で歌の

練習をしてから、バンジョーの弦の押さえ方や鳴らし方を教えていただきました。楽譜には歌詞が書かれていて、その歌詞に色が付いています。楽器には色付きのシールが貼ってあり、歌詞と同じ色のポジションを押さえてピックで弦をはじくだけで演奏ができるのです。「アルプス一万尺」では全部で3つのポジションを使って演奏しました。楽器に少し慣れてきたところで「もみじ」を練習しました。全員で演奏できた後は、曲集の中からそれぞれ1曲選んで、同じ曲を選んだグループごとに練習していきました。曲によっては新しいポジションが必要なものもあり、難易度の高い曲に挑戦する姿も見られました。最後にグループごとに練習の成果を発表し、演奏後の満足そうな笑顔がとても印象的でした。

保護者の方も積極的に取り組んでくださり、また原さんが1人ひとりに丁寧に指導してくださったので1時間半という短い時間でも数曲弾けるようになりました。

バンジョーの魅力を存分に味わうことができたワークショップだったのではないのでしょうか。



日 時：平成 27 年 2 月 1 日（日） 13:30～15:00
会 場：アクトシティ浜松 研修交流センター
講 師：原さとし 参加者：15 人

「ポルトガルのタンバリン “アデュフェ” を作って演奏しよう！」



2月14日(土)、子どものための楽器体験ワークショップ2015の第3弾「ポルトガルのタンバリン “アデュフェ” を作って演奏しよう！」を開催しました。講師にタンバリン博士こと、タンバリン演奏家の田島隆さんをお迎えし、小学生を対象にアデュフェの作り方を教えていただきました。

ポルトガルのタンバリン “アデュフェ” は世界でも珍しい四角い形をした太鼓で、木の枠に羊の革が張っており、楽器の中には鈴などの球状のものが入っています。楽器を叩くだけでなく振ることによっても様々な音を出すことができます。その昔はポルトガルのお母さんたちが叩いていたそうですが、今ではその他の人にも親しまれるようになりました。ポルトガルの伝統的なフォーメーションダンス “シャランバ” の伴奏に弦楽器と一緒に演奏することもあるそうです。

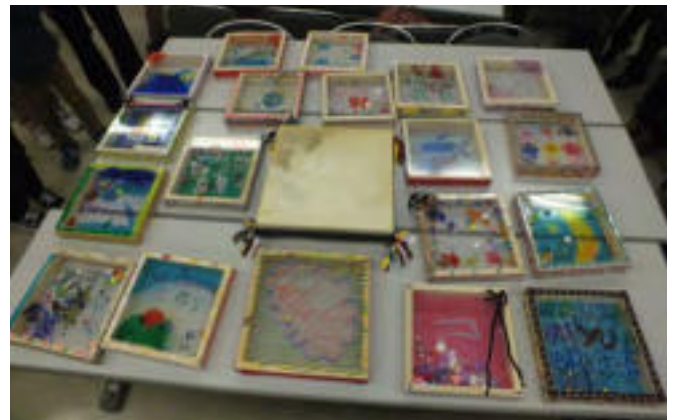
今回のワークショップでは羊の革ではなく、シュリンクフィルムという暖めると縮む特性のある特殊なフィルムを使ってタンバリンの膜を作りました。まずは木の枠を組み立て、そこにテープでフィルムを貼ります。楽器の中には自分で選んだきれいなビーズや鈴をたくさん入れて音が鳴るようにしました。次はドライヤーを使い、フィルムを暖める作業です。フィルムが熱によって縮まってピッタリと枠に付くと、叩く面

がピンと張っていき、子どもたちもとてもおもしろそうに作業していました。

ここで楽器は完成ですが、ここからはフィルムに自由に絵を書き、自分だけのオリジナルアデュフェを作っていきます。思い思いの絵や文字を黙々と書いていく姿に、講師の田島さんも「子どもの発想力は想像以上。すごい集中力だね。」と驚いていました。作業の途中でリクエストがあり、田島さんのアデュフェの演奏も聴くことができました。

フィルムに絵を描き終え、仕上げに楽器の側面をきれいなマスキングテープで飾りつけてようやく完成です。色も中身も外の飾りも、それぞれ全く違うデザインの “アデュフェ” が完成しました。

ワークショップの最後は、完成した楽器を使って鳴らし方を教わり合奏をしました。アデュフェは面の中心と端を叩くのでは出る音が違います。また、ビーズを入れたことで振っても音を奏でられます。グループに分かれてそれぞれ違う鳴らし方で演奏してみると、同じ楽器から様々な音が聴こえてきてとても迫力のある大合奏になりました。



日時：平成27年2月14日(土) 13:30～15:30
会場：アクトシティ浜松 研修交流センター
講師：田島隆 参加者：19人

日本の魅力再発見!! 日本の雅楽 その② ～ 雅楽の「吹きもの」～



笙



篳篥



竜笛

日本では和楽器の分類は、古来から演奏の仕方によって分ける習慣があります。「吹きもの」「弾きもの」「打ちもの」という分け方です。今回は雅楽で使われる「吹きもの」を紹介します。

雅楽の楽器といえはまず笙（しょう）が思い浮かぶ方も多いでしょう。その形は中国の神話に出てくる伝説の鳥「鳳凰」が翼をおさめている姿を表しているといわれ、別名「鳳笙（ほうしょう）」とも呼ばれます。合奏の中では5～6つの音を同時に鳴らす「合竹（あいたけ）」という奏法で演奏し、神秘的な音色は「天から差し込む光」とも例えられます。

篳篥（ひちりき）は雅楽のほとんどの演奏形態に用いられる楽器で、主に旋律を担当します。本体は長さ18cmほどですが、音は大きくパワフル。蘆舌（ろぜつ）という葦製のリードをつけて吹きます。「塩梅（えんばい）」という、指孔を変えないで音の高さを自在に変える奏法に大きな特徴があり、その音色は「人の声」、広い意味では「地上の音」すべてを表すともいわれます。

このほかに、横笛の神楽笛（かぐらぶえ）、龍笛（りゅうてき）、高麗笛（こまぶえ）があります。それぞれ音域が少しずつ異なり、演奏の形によって使い分けられます。龍笛の音色はその名のとおりに「龍の声」といわれ、「天と地の間の空間」を表しています。

以上で紹介した吹きものうち「笙・篳篥・龍笛」を合わせて「三管」と呼びます。それぞれが「天・地・空」を表すことから、奏でる音楽は小宇宙を創っているともいわれます。雅楽が貴族たちによって盛んに演奏されていた平安時代、随筆「枕草子」で清少納言は吹きものの音色について以下のように述べています。

「笙の笛は月のあかきに車などにて聞こえたる。いとをかし」
（笙は月の明るい夜に牛車などで聞こえてくるのがたいそう風情がある）

「篳篥はいとかしがましく、秋の虫をいはば嚙虫などの心地してうたてけちかく聞かまほしからず、ましてわろく吹きたるはいとにくきに…」

（篳篥はたいそうやかましく、秋の虫のくつわ虫のようで嫌な感じで近く聞きたくない。まして下手に吹いているのは最悪…）

「笛は横笛いみじうをかし。遠うより聞こゆるが、やうやう近くなりゆくもをかし。近かりつるがはるかになりて、いとほのかに聞こゆるもいとをかし」

（笛は横笛がすばらしい。遠くから聞こえるのがだんだん近くなるのも趣きがある。近かったのがずっと遠くになってほのかに聞こえてくるのも大変美しい）

清少納言は笙と横笛はお気に入りでしたが、篳篥はあまり好きではなかったようです。音色の好みはさておき、雅楽の成立した千年前ごろの貴族たちは月の光や虫の声など、自然を身近に感じて生活し、楽器もそのような生活に溶け込んでいたことがこの一節からうかがえます。音色を自然のあらゆるものに当てはめた当時の人々の感性も、現代の雅楽の響きに受け継がれています。

博物館日誌

- 2/1 (土) 子どものための楽器体験ワークショップ
「バンジョーをひこう！」
13:30 研修交流センター 講師：原さとし 参加者：15人
- 2/14 (土) 子ども楽器体験ワークショップ
「ポルトガルのタンバリン “アデュフェ” を作って演奏しよう！」
13:30 研修交流センター 講師：田島隆 参加者：19人
- 2/17 (火) ～18 (水) 特別授業
聖隷クリストファー中・高等学校 中学1年生
10:00～15:00 展示室
講師：田上知穂（聖隷クリストファー中・高等学校教員）、梅田徹（当館職員） 人数：60人

浜松市楽器博物館だより

平成27年3月1日発行 No. 98

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1

TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129

URL <http://www.gakkihaku.jp/>

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回
展示品の解説を行います
- レクチャーコンサート
＜フォルテピアノとその時代 第1回＞
「冬の旅～フォルテピアノで贈るシューベルトアーデ～」
3/11 (水) 19:00 天空ホール 主演：平井千絵、近野賢一
「時代を彩るオーボエたち～16世紀から21世紀へ～」
3/25 (水) 19:00 天空ホール 主演：三宮正満、水永牧子
＜フォルテピアノとその時代 第2回＞
「ノクターンの誘惑～フィールドとショパン～」
4/22 (水) 19:00 天空ホール 主演：羽賀美歩
- 講座
フォルテピアノのその時代I「プロローグ：シューベルトの夢」
3/4 (水) 19:00 展示室 講師：筒井はる香
- ミュージアムサロン 14:00&15:30 (天空ホール)
3/21 (土) 「フルート音楽の魅力～麗しき旋律～」
出演：鈴木未希香、当館職員